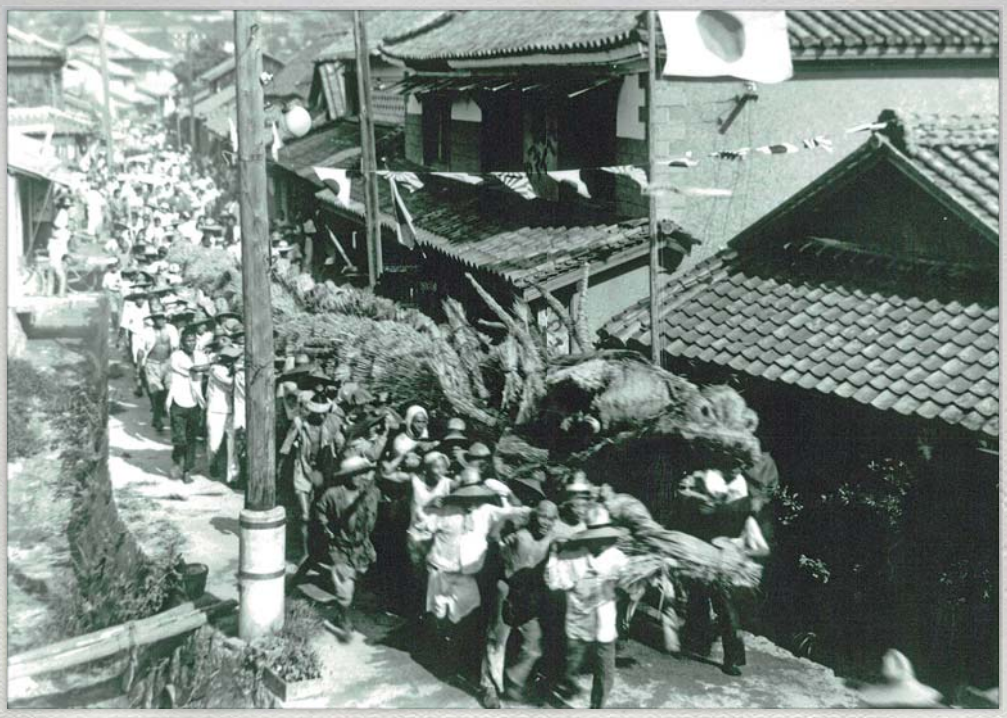
広報みとよ
2015
8月号
平成27年8月1日発行

蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 32

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

昭和14(1939)年の
大干ばつに作られた雨乞いの竜
昭和14(1939)年　仁尾町

仁尾竜まつりは、寛政11(1799)年から昭和14(1939)年まで行われていた雨乞い神事を起源にする。当時は、大干ばつのたびに、わらで竜を作り雨乞いを行っていたが、昭和14年を最後に途絶えていたという。その雨乞い神事が、昭和63(1988)年の瀬戸大橋博覧会のイベントとして復活し、それを契機に仁尾竜まつりが開催されるようになった。

「想い出の一ページ」

「あぁ、この写真なぁ。ちょうど私が小学生のころでした。大きな竜でしたよ」

写真の場所のすぐ近くに住む森武範さん（86）は、当時のことをよく覚えていました。

「昔は干ばつのときに竜を作って、履脱八幡神社で雨乞いの祈願をした後、昔の吉津線を通って賀茂神社まで町を練り歩き、最後は父母海岸で竜を流したようですよ。写真の年はひどい干ばつでね。ほら、道路の横の川に水が全然ないでしょう。川底に草が生えるほど日に焼けていたんですよ。だから、竜を作って雨乞いをしたんです。今は稲わらで作っていますが、昔は麦わらで作っていました。田植えの前に雨乞いをしていましたから、稲わらはなかったんです。それに、麦わらは軽いし水をはじくので、ちょうどよかったんですよ。農家の人が大勢で担いで練り歩き、道沿いの家々から竜に水を浴びせていました。

竜の頭は、鬼瓦を作る職人だった「上総屋」のおじいさんが作ったと聞いています。当時はモデルになるようなものもなかったから、自分の想像で作ったんでしょうね。写真の真ん中に写っている「へんこつ屋」という木賃宿のおかみさんが、死んだ人の魂を呼び起こすと評判で、雨乞いの時もイタコみたいにして、雨の宮神社の神さんを呼び出していました。当時は神頼みしかなかったですからね。

社会情勢が変わったためか、この年を最後に竜は作られなくなりました。その後、昭和63年の瀬戸大橋博覧会のときにイベントに参加して復活。それからは毎年「仁尾竜まつり」が行われています。目的は昔と違うけれど、若い人たちが、町を活気づけようとがんばっています。応援したいですね」

編集後記

平和という言葉を口にすることはありますか。特集で紹介したことは数えきれない出来事のほんの一部かもしれません。たくさんの方々の犠牲の上にあり、かつ、守り続けてきたからこそある「平和」。その尊さを、改めて胸に刻まなければならないと取材をして感じました。

発行・編集　三豊市役所総務部秘書課
香川県三豊市高瀬町下勝間2373番地1　☎0875(73)3001